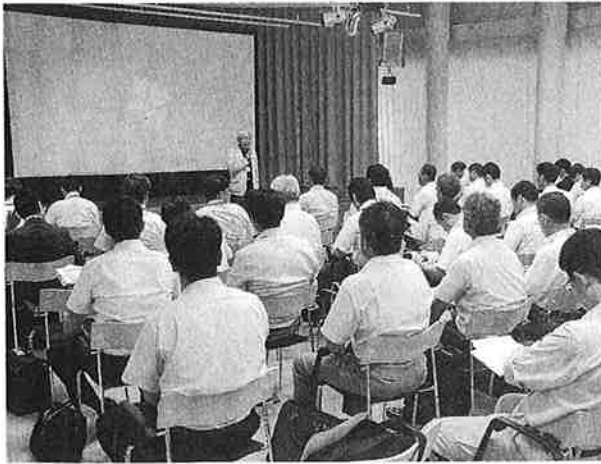


技術共有しマニュアル作成を

県コンクリート診断士会総会

新潟県コンクリート診断士会（会長・地濃茂雄、新潟工科大学建築学科教授）は8日、新潟市中央区のほんぽーと新潟市立中央図書館で14年度通常総会を開催した。約80人



事業計画、役員改選など審議した会合＝8日

が出席し、事業計画案や役員改選案などを審議した。地濃会長のあいさつの後、議事では13年度事業報告・収支決算および、現地研修会の開催、研修会への講師派遣、診断士制度活用のPR強化などを盛り込んだ14年度事業計画案・収支予算が承認された。

また、正会員が増えたことから、副会長や会計監事、幹事が増員となる会則改定案を承認。役員改選により地濃会長のほか、吉田弘副会長、伊藤司郎副会長、牧岳修会計監事を再任。新たに副会長に本田明氏（水倉組）、会計監事に丸山聡氏（タイアテック）、幹事に中村博之氏（プロダクト技研）、上重大地氏（銀山開発）が加わった。再任のあいさつで地濃会長は「技術力の高い人たち同士の親睦が深まり、会員も100人を越し、技術部会を立ち上げ成果も上がった。今後は情報・技術を共有しながら、新潟県版マニュアルを作成していきたい。技術者の育成でも診断士会への期待は大きい」と意気込みを語った。

総会の後は、土木管理総合試験所の星野富夫所長を講師に招き、「コンクリート工学における分析技術の確立」と題して講演会が開かれた。昭和40年代に取り組んだ研究を紹介するとともに、劣化現象の解明や防食効果の確認などで著しい成果がある電子線マイクロアナライザー（EPMA）によるコンクリート診断技術を解説した。